

この章では、文字を使って量を表すことや、量の関係を表すことについて、算数で学習したことをさらにひろげていきます。
この章の学習内容とつながりの深いことがらについて確認しましょう。

2章の準備を
しよう！



式とその計算の順序

小学4年

1冊 90 円のノートを 4 冊買い、1000 円出したときのおつりを表す式を書きましょう。
また、買うノートが 5 冊、6 冊のときには、式はどうなるでしょうか。



おつりは、 $\boxed{\text{出したお金}} - \boxed{\text{代金}}$ で表され、

$\boxed{\text{代金}}$ は、 $\boxed{1 \text{ 冊の値段}} \times \boxed{\text{冊数}}$

だから、4 冊買ったときのおつりを表す式は、

$$1000 - 90 \times 4 \text{ (円)}$$

となります。



四則の混じった式では、
乗除をさきに計算するから、
() を省くことができるね

$$\begin{aligned} &1000 - (90 \times 4) \\ &\rightarrow 1000 - 90 \times 4 \end{aligned}$$

買うノートが5 冊、6 冊のときには、

$\boxed{\text{冊数}}$ のところが変わるから、

$$1000 - 90 \times \boxed{5} \text{ (円)}, \quad 1000 - 90 \times \boxed{6} \text{ (円)}$$

となります。

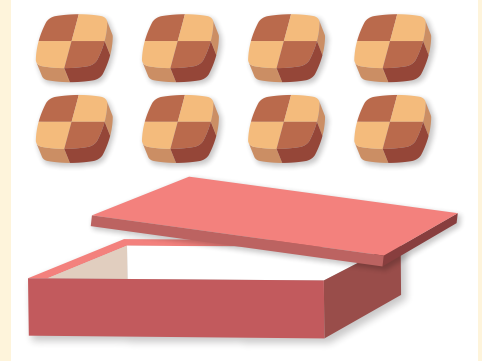
いろいろな数量を、文字を使って表して
いきましょう。

➡ 数量を文字で表すこと (本冊 p.56)
につながるよ

式の読みとり方

右の絵で，クッキー 1 枚の
値段を x 円としたとき，
次の式は何を表している
でしょうか。

$$x \times 8 + 200 \text{ (円)}$$



<値段表>

クッキー…1 枚 円

箱 代………200 円

解説

$x \times 8$ は，クッキー 8 枚の代金だから，

$$x \times 8 + 200 \text{ (円)}$$

は，クッキー 8 枚を箱につめて買った
ときの代金を表しています。

文字式が，どのような数量を表しているかを
考えていきましょう。

→ 式の意味（本冊 p.61）につながるよ

>, <, = を使った式

小学2年

小学3年

□ に >, <, = を入れて, 大小や等しい関係を表しましょう。

- (1) $100 \square 60 + 50$ (2) $100 \square 60 + 40$
 (3) $100 \square 60 + 30$

解説

$\frac{8}{8} = 1$ のように, 等しいことを表す記号 = を等号といい, $1 > \frac{5}{8}$ や $\frac{3}{8} < \frac{5}{8}$ のように, 大小を表す記号 >, < を不等号といいます。

- (1) 100 は, $60 + 50$ より小さいから,
 $100 < 60 + 50$
 (2) 100 は, $60 + 40$ と等しいから,
 $100 = 60 + 40$
 (3) 100 は, $60 + 30$ より大きいから,
 $100 > 60 + 30$

数量の間の等しい関係や大小関係を,
 文字式で表していきましょう。

→ 関係を表す式 (本冊 p.73) につながるよ